

連珠っておもしろい

名人 河村典彦

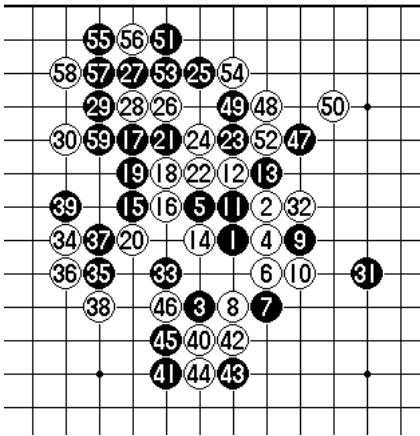
●第11回● 20歳の頂点

このたび、隣の（と言っても高層マンションとぼろアパートぐらいの違いがあるが）将棋界で、20歳の渡辺新竜王が誕生した。羽生世代より更に若い棋士が頂点に立ったことで、これからはますます活性化されるだろう。連珠界にも早く世代交代を、というのほもちろんだが、今回言いたかったのは、早くに頂点に立った者は、一度は必ずその座を奪われるというジンクス？である。

将棋界でも19歳で竜王となった羽生さんは翌年奪われていたし、我が連珠界でも中村名人が初めて名人になった翌年、すなわち第14期名人戦では西村さんに三タテで負けている。これは、若くして頂点に立った者は

まずは勢いで制したからで、真の実力がまだ追いついておらず翌年は負けてしまう。しかし、再び頂点に立った時は、真の実力を備えたので比較的連覇になりやすい、というのが私の説である。（中村名人も15期から3連覇、19期から13連覇）そういう意味で、今年の渡辺竜王が防衛できるのか注目している。

さて、今回は先に行われた三上杯からご紹介しよう。仮先白 石谷八段 黒59にて白投了

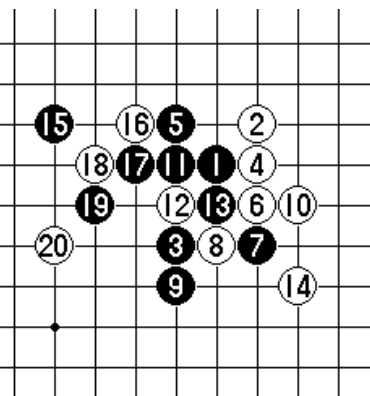


題数指定打ちが採用された。題数指定打ちとは、仮先が珠型と5珠の数を指定するもので、これによりすべての珠型が選択可能となると言っても過言ではない。名月3題を指定したが、さすが白を取られ、白4の作戦が示された。もちろん2題までなら黒有利なのだが、3箇所目がわからない。その場で考えて黒5を打ったのだが、どうやらこれしかなさそう。黒9では40に打ちたかったが、嫌な筋が見えたので慎重に黒9と押さえる。なお、その嫌な筋を次の三森戦でさっそく確認することとなる。

黒15からの展開は自信がなかったが、黒21では勝ったと思っていた。しかし、これは読み違いで、平凡に白22、24と防がれて勝ちがない。黒25からはいかにごまかすか、なのだが、白34に打たれた時にはちよつとマズイと冷や汗。でも石谷

さんの消極策に助けられ、攻めが続くことに。最後は白50の敗着が出て、何とか1勝できた。やっぱり初戦はあまり出来が良くない。

仮先黒 三森九段 白20にて黒投了



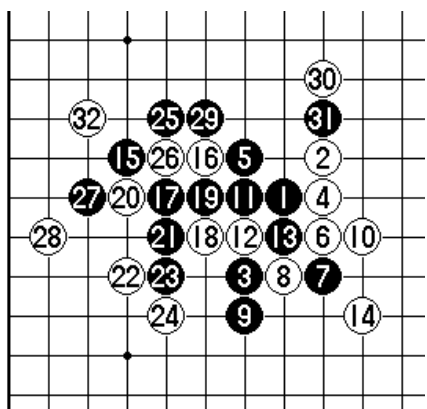
運営の岡部君が「同一珠型の指定禁止」と言っているのを無視して名月を指定された。（もちろん3題）三森さんは前局の河村・石谷戦をご覧になっていたので、さうと思っただが、あえて石谷さんにかけられた白4の作戦を借用した。

黒9に対し、「嫌な筋」と思っていたのが白10だった

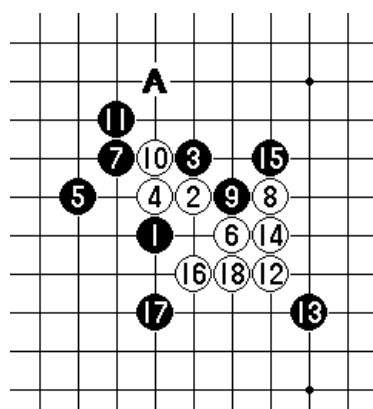
のでかけてみたが、対して黒11から一気に引かれたのには驚いた。確かに、ここで引かないと苦しくなりそう。白14もこちらから止めないと黒に追い勝ちがありそう。黒が追い手を続けるには黒15しかないが、白16と焦点に止めて勝ちはないだろうという読み。黒17が悪く、白20となったところでもノリ手がどうしても邪魔で勝ちに至らず、かと言って防ぎもないので三森さん、無念の投了となった。

局後検討で黒17を打ち変えて黒勝ちが出たのだが、結局次の図で勝ちに至らないようだ。黒29の時白30と飛ぶ手があった、四々禁がからんで四三にならない。三森さんが「白10は定石外の手で、これなら黒11から勝ちのはず」と仰られていたのは、多分19道四々勝ち時代のものだからだという推測になった。(それにしても定石があったとは：)

(参考図)



飯先黒 山口九段
白18にて黒投了



さて、3回戦で全勝同士の大一番となった。もともと題数指定打ちは「ヤマグチルール」として世界で認

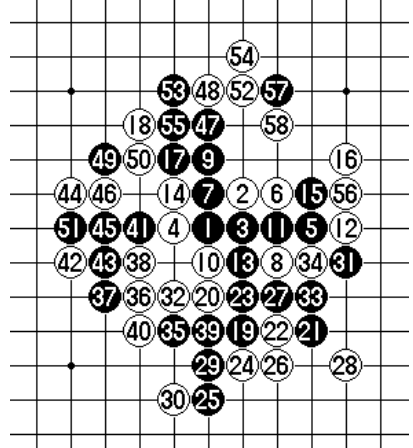
知されているし、彼はこの分野では一歩先にいるのは間違いないだろう。

それにしても峡月5題を指定され、面食らった。4題ぐらいが適当かと思うが：。白4は慣れていないための緩着で、3題以上なら強防も異なってくる。黒5を選び、一応白6と脅かしたが、自信はない。ところが、黒7が良さそうに見えるた悪手だった。白8から引くのが肝心で、白10で黒は困る。黒11を反対ならAの三々禁狙いで受けがない。黒11にも白12から引き出せば簡単で、あっけない勝負となった。

これで優勝に大きく近づいたが、飯尾さんも半星差で追いかけてきていた。最終局で勝った方が優勝という状況で打つことになった。

黒 飯尾七段
白58にて黒投了

「どうせなら普段打たれていない珠型を」の圧力に、



やむなく雲月を指定。白4なら何とかなるだろう、ぐらしいの感覚だ。

黒5を8と打って斜月に戻すのもありそう。黒5はなるほどという手だが、黒に打たれなかった急所の白6を打つ。黒7は8ではなかったか？さらに黒9が考えすぎで、白14までで早くも黒が苦しくなった。以降黒21が22ならまだあやがあったが、白22と楔を打たれては黒にもう勝ち目はない。あとはじっくりと料理させてもらい、三上杯連覇を達成することができた。